（令和6年）11月24日（日曜日）　讀賣新聞　（第3種郵便物認可）

ホルモン療法薬 種類増

病院の実力 ＊兵庫編198

前立腺がん

今回の病院の実力は、前立腺がんを取り上げる。一覧表に治療実績を載せた。がんが前立腺内にとどまっていれば、手術も放射線治療も可能だ。低リスクの場合、ゆっくり進むことが多く、検査を受けながら経過観察を続ける「監視療法」が行われることもある。

手術は、全摘出が一般的だ。開腹手術のほか、おなかに複数開けた小さな穴からカメラや器具を入れて行う腹腔鏡手術、近年増えているロボット支援手術などがある。

放射線治療では、照射強度をコントロールして正常な臓器への影響を減らす強度変調放射線治療が増えている。1回の線量を増やして治療回数を減らす治療法も効果を上げている。

体内から照射する治療では、放射性物質を密封したカプセルを埋め込む永久挿入密封小線源療法と、前立腺内に針を入れて一時的に強い放射線をあてる高線量率組織内照射法がある。

手術と放射線の治療成績は同程度。前立腺は膀胱や尿道、直腸に近く、がん治療によって、尿漏れや性機能障害、出血などが起こる可能性がある。体や生活への影響をよく理解し、治療に臨むことが大切だ。

がんを進行させるホルモンの分泌を抑える薬物療法では、新規アンドロゲン受容体シグナル阻害薬が相次いで登場。転移がんへの有効性が認められ、初回から使われることもある。

前立腺がんは生存率が比較的高く、早期発見が重要となる。自覚症状がないこともあるため、血液で調べるPSA検査を定期的に受けることが勧められる。

病院の実力「前立腺がん」
医療機関別2023年治療実績
（読売新聞調べ）

医療機関名	全手術（件）	放射線治療（件）	ホルモン療法（人）	監視療法（人）
兵庫県				
神戸大	106	96	99	3
北播磨総合医療セ	91	58	—	—
県立がんセ	90	80	30	5
県立尼崎総合医療セ	69	20	9	3
国・姫路医療セ	55	52	9	0
兵庫医大	48	53	30	6
神戸市立西神戸医療セ	44	102	34	18
姫路赤十字	44	46	—	—
三田市民	44	43	16	7
神鋼記念	43	0	—	6
市立伊丹	32	33	18	—
加古川中央市民	25	56	5	0
近畿中央	20	23	14	4
県立淡路医療セ	12	—	14	5
明和	0	82	8	1
宝塚市立	0	76	50	5
川西市立総合医療セ	0	0	14	13

「国・」は国立病院機構、「セ」はセンター、「—」は無回答または不明。

全国の調査結果は20日の「安心の設計」面に掲載しました。

50歳超えたら検査を

県立がんセンター 倉橋俊史泌尿器科部長

前立腺がんについて、県立がんセンター（明石市）の倉橋俊史泌尿器科部長（53）に聞いた。（聞き手・岡大賀）

——罹患する人が多い年代は。

比較的、高齢の方に多いがんで、70歳代以上が7割程度、50～60歳代が3割程度です。

——検査の方法や流れは。

「PSA（前立腺特異抗原）」を測る血液検査が有用です。早期では自覚症状がほとんどないため、50歳を超えてから一度はPSA検査を受けて損はないと思います。兄弟や親戚で前立腺がんを患った人が3人以上いる場合は、40歳が一つの目安になります。高額な検査でもありません。

——どんな治療法があるのか。

手術または放射線治療で根治を目指します。

ロボット手術が主流になってきています。視野が広く、精密な操作が可能で、傷は小さく、入院期間は7～10日ほどと体への負担が少ないです。

放射線治療は薬物治療と併用することが多く、恐怖心を感じにくいことと、入院しなくていいことがメリットです。ぼうこう炎や直腸炎などの合併症も少なくなってきており、1回5～10分程度で、20～30回の通院で治療は完了します。

——治療で心がけていることは。

患者にそれぞれの治療法のメリットとデメリットを理解してもらい、適切な治療を提案しています。

前立腺がんについて説明する倉橋部長（明石市で）